



建設が進む禪定林の**新本堂**（マナケさんが代表を務める「パンニヤ・メッタ協会」のホームページから）

# 留学僧元 延暦寺 新本堂に母国



マナケさん

天台宗の総本山・延暦寺（大津市）に留学していたインドの僧サンガラトナ・マナケさん（西瓦）が宗の協力や一般の人の善意に支えられ、母国のお寺に新しい本堂の建設を進めている。完成に先駆け、二月八日に日本の関係者も出席して、落慶法要が営まれる。マナケさんはインド中央部・デカン高原北のナグプール市の出身。延暦寺の初めての公式留学僧として一九七一年に九歳で来日し、大津市の小中高校で学びながら十四年間

## インド、8日に落慶法要

修行を続けた。外国人として初めて百日回峰行も達成している。八五年にインドへ帰国。アジアで初の天台宗の海外寺院・禪定林を建立し、住職を務めている。日本の友人や市民の協力も得て、身寄りのない子の生活施設や無料図書館、学校を設けるなど、貧困層の救済にあたってている。

八日の落慶法要は日本から完成が近づいている禪定林の新本堂は二〇〇五年二月に工事が始まった。手狭な現在の建物に代わり、本格的な活動の拠点となる。天台宗の開宗千二百年記念事業の一つとしても位置づけられた。

延暦寺の如法塔を模した多宝塔形式で、元京都嵯峨美術大教授の中村和夫さんが基

本設計を担った。鉄筋造り、内部吹き抜けの一階建て。相輪も入れて高さ三八・五尺、延べ面積は回廊も含めて千二百平方尺。本尊も新調された。総事業費は一億五百万円で、宗からの援助と日本国内の多くの人が集められた募金で充てられた。

天台宗の関係者ら約二百五十人も出席し、盛大に行われる。マナケさんは「禪定林設立から丸二十年という節目の年に、五千人を超える人々の支援で新本堂ができることになり、感謝しています。新本堂を拠点に日本で学んだ仏教を、発祥地のこの国でさらに広げていきたい」と話す。

日本で学んだ**仏教** 発祥地でさらに